

---

# 空腹と電話。

一柳 紘哉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空腹と電話。

### 【Nコード】

N0875A

### 【作者名】

一柳 紘哉

### 【あらすじ】

僕はただ普通に暮らしたい。人が望んでいる小さな幸せさえあればそれでいい。だからこんな電話は全くもって迷惑。しかも、昼食を作っている時なんてタイミングも悪い。もう少しタイミングさえよければその話乗ったかもね。

僕は昼飯に簡単に食べられるツナサンドを作っている。  
ちようどツナをマヨネーズで和えようと思っていたら、電話がなっ  
た。

「もしもし。覚えてる？私よ。」

綺麗な女の声だ。

僕は人の声を覚えるのは病的に得意としていたけど、まったく聞き  
覚えがない声でそう言われた。

「悪いけど、まるで君の声に聞き覚えはない」

正直に答えた。

「そう。まあいいわ。あなたが私を知らなくても私はあなたを知っ  
ているもの。」

それで十分じゃない？」

確かにある意味ではそれは十分である。

しかし、僕の立場ならば、それはとても不十分である。  
諦めて。

「まあいい。それで君の用件はなんだい？」

ボールでツナをマヨネーズで和えながら聞く。

隠し味に七味を入れる。

「あなたは本当に環境適応能力が高いわね。いいわ。用件を話しま  
しょう。」

あなた、私と入れ替わるきないかしら？」

理解できずに聞き返す

「どういう意味？」

「言葉どつりの意味よ」

間髪入れずに答えてくる。

僕は微塵切りにした玉葱をツナの入ったボールの中に入れた。

「君の言うどつりだとすると、君が僕になつて、僕が君になるってことだろ。」

そんなことは物理的に不可能だ。

できて生活を入れ替えるぐらいなものだろう。」

僕はボールの中にある食材達を一つにまとめた。

「それが可能なのよ」

食パンの耳を切り落とす。

「どうして僕なんだい？」

他にも沢山人なんているだろ。」

食パンにバターを塗り、ツナベースの具をパンに塗る。

「理由をあげたらきりがなくいろいろあるわよ。」

全部聞きたい？」

「聞きたくない」

興味があつたが、そう言つて、電話を切つた。

食パンを重ねて、綺麗に三角に、四等分にした。

また電話がリンリン僕を呼んでるけど、もうでたくなかった。なぜなら、サンドイッチが美味いから。

いつか、僕が暇なときなら電話にでるよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0875a/>

---

空腹と電話。

2011年1月31日11時14分発行